

ひと
えひめ経済人

わが社の 首脳陣



高岡照海社長



高岡令恵取締役



営業企画部
日野厚志さん

地域経済

Line

「困っている」と「商機

「人が一番困っている」とを何とかしてあげたい。そこにビジネスチャンスが眠っている」と経営方針を語る高岡照海社長(75)。設立以来ぶれない信念を持ち、健康食品の製造・販売を軸に多方面での挑戦を続けている。

照海社長は、伯方塩業の元会長で「陽光桜」を生み出した故正明さん(1909〜2001年)の長男。高校時代に、かつて正明さんも患った結核にかかり生死をさまよったことで、食生活を見直し野菜を摂取する重要性に気付かされた。キャベツやパセリをつぶしてかすこと食べたところ3ヵ月ほどで

遠赤青汁(東温市)

回復。農業と造園業の二足のわらじを経て、アトピー性皮膚炎などで悩む人たちのために野菜を簡単に取れる商品を届けようと、1992年に会社を立ち上げた。

商品は、無農薬・有機農法で栽培した原種ケールやニンニクを遠赤外線乾燥させる。開墾から加工・販売まで一貫して手掛けることから「7次産業」(照海社長)と自負。独自製法は国内外で特許を取得しており、機械も自社製で「二重三重に特徴を出している」と胸を張る。近年ではインドネシアの貧困地域で農業ビジネスに乗り出したり、さらに増えるであろう県内

の耕作放棄地を活用したりしている。

思い立ったら未明から軽トラックを走らせ、九州まで行ってしまつという照海社長。妻で取締役の令恵さん(70)は「支える」や「ついて行く」という感覚はない。次々出てくる話を聞くのが楽しい。全て仕事で全て趣味みたい」と優しく夫を見やる。

自身は長年経理を担い「社長はあまり利益を求めていないので、事業の継続をバックアップするのに苦労する」と明かす。グループ会社の外国人実習生や近所の仲間らと茶道をたしなみ、日本文化の発信も続けている。(和田亮)

【メモ】1992年に設立。東温市に本社(則之内)と工場(河之内)、西条市に第二工場があり、健康食品やせっけん、ローションなど約100商品を手掛ける。従業員約20人。主な事業は農産物の加工・販売や化粧品の開発・販売、エネルギー開発(ソーラーシェアリング)など。